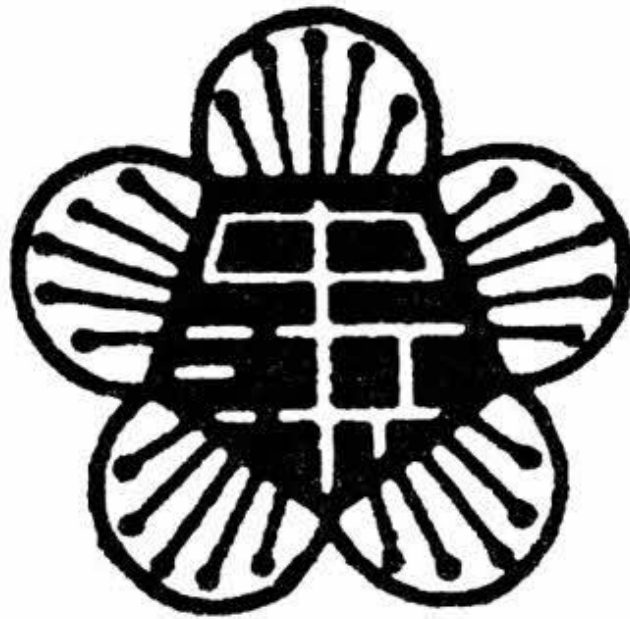


令和6年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立中浜小学校

令和7年2月

大阪市立中浜小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

I 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の在籍児童は172名で、1年28名、2年29名、3年31名、4年24名、5年35名、6年25名という小規模な学校である。児童一人一人が繋がりを持ち、学校生活を通してたてわり班活動や異学年交流を行っている。高学年はリーダーシップや責任感を示し、中・低学年はその姿を見て取り組むことで児童同士の学び合いが行われている。

令和5年度大阪市小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は84.2%（校内踏査:84.6%）だったが、学年間で大きな差があり、発達段階に応じた指導・支援が必要である。

また、大阪市小学校学力経年調査における平均正答率の全国対比では、国語科が1.01p、算数科が0.98pとほぼ同水準だった。各学年の結果を見ると、それぞれの学年で課題が異なり、それに見合った指導・支援、また取組が必要である。

教職員の時間外勤務の解消について、減少傾向は見られるが、基準1を満たす割合は60%、基準2を満たす割合は93.3%という結果となっている。今後も職場環境の充実を図り、全ての教職員が持続可能な業務に取り組む必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ① 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- ② 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- ③ 令和7年度の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ④ 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における国語科の平均正答率を全ての学年で大阪市平均正答率を上回る。
- ⑤ 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を35%以上にする。
- ⑥ 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ⑦ 令和7年度の校内調査の「健康的な生活を送ることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ⑧ 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日数の75%以上にする（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）。
- ⑨ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、令和7年度末に84.9%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 今年度の大阪市小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、87%以上にする。

【R5:84.2% ⇒ R6:96.4%】

- ② 今年度の大阪市小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88.5%以上にする。【R5:87.2% ⇒ R6:95.5%】

- ③ 今年度の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を昨年度と同様に高水準を保つ。

【R5:96.3% ⇒ R6:98.2%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ④ 今年度の大阪市小学校学力経年調査における国語科の平均正答率を全ての学年で大阪市平均正答率を上回る。【令和 6 年度大阪市学力経年調査学年平均正答率/大阪市平均正答率、3年 64.6/61.4、4年 69.9/67.5、5年 78.6/70.4、6年 72.0/66.4】

- ⑤ 今年度の大阪市小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を、59%以上にする。【R5:58.5% ⇒ R6:58.6%】

- ⑥ 今年度の大阪市小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。

【R5:80.6% ⇒ R6:83.8%】

- ⑦ 今年度の校内調査の「健康的な生活を送ることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。【R6:92.8%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ⑧ 今年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日数の 50%以上にする(ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)。

【R6:100%】

- ⑨ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を、同水準以上にする。【R5:93.3% ⇒ R6:100%】

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は、昨年度の反省を踏まえ、教職員全体で共通理解をして取り組みを進めてきた。その結果、どの項目においても目標を達成することができた。

【安全・安心な教育の推進】について

今年度も、「いじめについて考える日・いのちについて考える日」を学期に1回実施した。その際、「学校安心ルール」を用い、自己の生活について振り返るようにし、いじめは絶対にしてはいけないという気持ちを育ててきた。その結果、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対し最も肯定的回答が、昨年度よりは12.2ポイント向上した。

「中浜フレンドリーランド」や「ハピースマイルウォーク」、毎週の集会活動など他学年とのつながりを意識した活動を行う中で、身の回りに仲間が増え、児童の安心につなげることができた。その他、委員会等の活動を通じて、高学年は自己の役割を認識し、責任を持って取り組み、自己の有用性を感じ取ることができたと考える。今年度の大阪市小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、昨年度を上回る結果となり、上記の取り組みにおいて、一定の成果があったと考えている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

今年度、主体的・対話的で深い学びの学習形態を推進してきた。大阪市学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して肯定的回答がどの学年でも大阪市平均を上回りことができ、一定の成果があったと考えている。

大阪市学力経年調査の、国語科・社会科・算数科の正答率において全ての学年で大阪市平均を上回る結果となった。また、理科においても、ほとんどの学年で大阪市平均を上回っており、下回った学年においてもほぼ同等の結果となった。今年度は対話を中心とした学習に取り組み、誰一人取り残されない教育環境の推進を重視し、取り組んできた。児童が学びを主体的に捉え、深い学びに結びつける一助となったと考えている。

体力の向上としては、今年度は跳躍力の向上を狙い、「なわとび週間」を年に2回行った。3学期に行っている「耐寒スポーツタイム」と合わせると、学期に1回全校児童で運動に取り組むことができた。来年度も跳躍力の向上を進め、いろいろな取組を継続する。

【学びを支える教育環境の充実】について

タブレット端末の活用については、授業中だけでなく、宿題等の家庭学習でも活用することが増えた。端末の稼働率も増加し、80%以上稼働している日の割合が6月以降、学校行事等ICT活用に適さない日数を除いて100%（4月以降では97.2%）となった。今年度は「こころの天気」の活用に尽力し、特に児童の入力率の向上を進めてきた。6月以降は80%以上の入力率を維持し、入力が日常的なものになってきている。今後、入力内容を分析し、児童の生活指導をより一層充実させていく。

教職員の働き方改革については、基準2を満たす割合が100%となり目標を達成することができたと考えている。教職員は毎日の勤務時間を意識して、業務を進めている。また、業務改善のため、2つの内容が一部重複する会議をまとめ、会議数を減少させた。会議時間も減少するよう案件や内容を事前に示したり、内容を精選したりするなど進めてきた。

現在では、月時間外勤務45時間を上回らないような働き方が定着しており、教職員全体の業務改善が進んでいる。

(様式2)

大阪市立中浜小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標Ⅰ 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 今年度の大阪市小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、87%以上にする。【R5:84.2% ⇒ R6:96.4%】</p> <p>② 今年度の大阪市小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88.5%以上にする。 【R5:87.2% ⇒ R6:95.5%】</p> <p>③ 今年度の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を昨年度と同様に高水準を保つ。 【R5:96.3% ⇒ R6:98.2%】</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向Ⅰ、安心・安全な教育環境の充実】</p> <p>いじめ・いのちについて考える日を中心として、いじめは絶対にいけないという気持ちを育むと共に、自他のいのちの大切さを受容できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>いじめ・いのちについて考える日を学期に1回設定し、いじめ・いのちについて考える機会とする。いじめアンケートや学校安心ルールの振り返り、道徳科等でいじめやいのちに関する学習を必ず実施する。また、虐待防止についての学習(2年生と4年生で実施)や学校体罰アンケート(年2回実施)等も併せて実施する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向Ⅰ、安心・安全な教育環境の充実】</p> <p>毎月スクリーニングシートを活用して児童理解を深めるための情報交換を実施し、児童一人一人の状況を把握したうえで、充実した支援・指導を進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>5・6・7・9・10・11・12・1・2・3月にスクリーニング会議(名称:児童理解研修)を実施し、児童の状況を把握できるようにする。その際は、児童に関わる全ての教職員が参加するとともにSSWやSCも参加(又は内容確認)できるようにする。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向Ⅱ、豊かな心の育成】</p> <p>たてわり班活動や異学年交流、学級のみんな遊びを通して仲間づくりを大切に、充実した学校生活を送ることができるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>たてわり班活動や異学年交流をそれぞれ学期に1回以上設定し、多くの児童と交流する機会を設定する。また、学級活動やみんな遊びなどみんなで楽しむ活動を週1回程度実施する。</p>	A

取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】		A
学校行事のなかで、児童会活動や委員会活動、また学級の係活動などの特別活動を通して児童が活躍できる場面を設定する。		
指標		
1年間を通して、全ての児童が児童会活動や委員会活動、学級での係活動を通して人の役に立つことができる場面を設定する。また、必ず振り返りを実施し、一人一人の児童が人の役に立つことができたことを実感できるようにする（キャリアパスポートの活用を含む）。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>① いじめ・いのちについて考える日を学期に 1 回設定し、いじめはいけないということを意識する機会を設けた。いじめアンケートや学校安全ルールの振り返り、道徳科等でも、いじめやいのちに関する学習を実施してきた。さらに、日々の児童の様子や変化をよく観察し、実態に応じて指導を行ってきたので、いじめは絶対にいけないという気持ちや、自他のいのちの大切さを児童自身が考えることができた。学校生活アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、99.4%であり、目標を大幅に上回ることができた。</p> <p>② 児童にかかわる全ての教職員や、SSW、SC も参加したスクリーニング会議（児童理解研修）を計画通り行うことができた。毎月、スクリーニングシートを活用して、児童理解を深めるための必要な情報を共有することができ、充実した支援・指導を進めることができた。</p> <p>③ 中浜フレンドリーランド、全校遠足などの行事、毎週の全校集会でのなかよし班活動など、異学年交流の機会を多く設けた。学級のみんな遊びも実施することができた。また、生活科「おもちゃランド」をきょうだい学年で交流の場として行ったり、6年生が1年生のお世話をする場面を多く設けたりするなど、異学年で交流する機会を設定した。委員会活動やクラブ活動、特別支援学級での週1回のさくらタイムなどでも、異学年交流を行うことができた。これらの取組を通して、仲間づくりを大切にし、充実した学校生活を送ることができる機会を多く持つことができた。</p> <p>④ 委員会活動では、健康週間や読書週間、なわとび週間、給食週間など様々な取組を企画し、児童が活躍できる場を多く設けたので、どの児童も活躍することができた。また、児童会活動や学級の係活動でも、児童が意欲的に取り組める環境を考えていったので、多くの児童が協力しながら活動に取り組んだ。そして、人の役に立つことができたことを振り返りやキャリアパスポートをもとに実感できるようにした。学校生活アンケートの「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、肯定的回答の割合は、98.2%であり、昨年度以上の高水準を保つことができた。</p>		
改善点		
<p>① 次年度も、引き続き、いじめ・いのちに関わる学習を実施し、いじめと思われる生活指導事案の早期発見・対応に努める。</p> <p>② スクリーニングシートの入力を日頃から習慣化するよう心がけ、入力を確実に言い、継続して、児童理解研修の実施、情報の共有に努める。</p> <p>③ たてわり班活動では、引き続き異学年との交流が深まる活動ができるよう取り組んでいく。また、たてわり班活動以外での異学年交流の機会も増えるように、各堂を工夫していく。学級活動やみんな遊びなどは、児童が意欲的に取り組めるような活動を、今後も工夫して実践していく。</p> <p>④ 今後も、児童会活動や委員会活動で新たな企画を取り入れながら、児童が活躍できる環境を整えていく。また、学級での係活動では、みんなで協力しながら、一人一人の児童が、活躍できたことを実感できるような内容を、引き続き工夫していく。</p>		

(様式2)

大阪市内立（学校園名）令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>④ 今年度の大阪市小学校学力経年調査における国語科の平均正答率を全ての学年で大阪市平均正答率を上回る。 【令和6年度大阪市学力経年調査学年平均正答率/大阪市平均正答率、3年 64.6/61.4、4年 69.9/67.5、5年 78.6/70.4、6年 72.0/66.4】</p> <p>⑤ 今年度の大阪市小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を、59%以上にする。【R5:58.5% ⇒ R6:58.6%】</p> <p>⑥ 今年度の大阪市小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。【R5:80.6% ⇒ R6:83.8%】</p> <p>⑦ 今年度の校内調査の「健康的な生活を送ることができている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。【R6:92.8%】</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑤【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 全ての教員の指導力の向上を推進し、授業研究を中心とした校内研修を充実させる。</p> <hr/> <p>指標 全ての教員が1回以上、本校の研究を基にした研究授業・公開授業を実施する。</p>	A
<p>取組内容⑥【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 学習活動において、話し合いの機会を多く設け、対話的な学習を推進する。</p> <hr/> <p>指標 本校の研究主題を中心に「話し合い活動」等の対話的な学びを据え、全ての教科について対話的な学びを推進するとともに、主体的・対話的で深い学びを推進する。</p>	A
<p>取組内容⑦【基本的な方向5、健やかな体の育成】 児童が運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツに取り組む機会を充実させ、主体的に取り組むことができるようにする。</p> <hr/> <p>指標 年間2つ以上、児童が運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツに取り組むことができるような場面を設定する。また、本校の課題である「体力」と「跳力」の向上をねらいとする取組を実施する。</p>	B

取組内容⑧【基本的な方向 5、健やかな体の育成】	A
健康教育や食育を充実させ、児童自身が健康に関心を持つことができるようにする。	
指標 全ての学級で健康教育や食育を実施する。その際、健康教育は健康増進（歯科保健指導を含む）の指導や取組、食育はバランスの取れた食事に関する指導を各学年、学期に1回実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>⑤ 計画通り研究授業、公開授業を実施している。今年度は研究授業の該当学年以外を下校とし、教職員が集中して研究授業に取り組むことができる環境が整った。学習指導案の書式においては、研究部を中心に見直し、より研究主題に合ったものにすることができた。研究授業の討議会でも教員が一人一人の児童の様子を観察し、児童の様子を振り返りながら授業づくりについて話し合い、研究内容をより深めることができた。また、教員の指導力向上につながるような研修会の実施や、メンター研修を毎月行うこともできた。</p> <p>⑥ 56.5%（校内調査）目標である59%には至らなかった。しかし、肯定的に回答した児童が94.6%と、多くの児童が肯定的にとらえることができている。教科を問わず、話し合いの機会を積極的に取り入れることができた。どの学年も学級の実態に応じた話し合い活動に継続的に取り組んでいる。話し合いの中で、相槌をうったりうなづいたりするだけではなく、質問することもできるようになってきている様子も見られる。学び合いに関する校内研修会を開くだけではなく、日頃から他学年や他教科の授業をお互いに観察し合うことで学び合う学習に関する指導力の向上に取り組むこともできた。</p> <p>⑦ 81.0%（校内調査）と、目標としていた82%には至らなかった。しかし、中間評価と比較すると1.2%向上した。前期には、運動委員会を中心になわとび週間に取り組んだ。後期はなわとび週間だけではなく、耐寒スポーツタイムを実施した。運動委員会と健康委員会が協力して跳躍の動きを取り入れたダンスを紹介する動画を作成し、準備運動で取り入れることで、全校児童が跳躍力向上の動きに取り組む機会を設定した。</p> <p>⑧ 発育測定時の保健指導や、健康委員会を中心に取り組んでいる健康週間など、健康増進を意識した取組が年間を通してたくさんあった。歯科検診の時間を活用し、歯に関する学習の機会もあった。また、栄養教諭による各学年の栄養指導だけではなく、給食の時間に各教室で行う栄養に関する学習の機会がたくさんあり、児童が食事に関する指導を受ける機会がたくさんあった。</p>	
改善点	
<p>⑤ 今後も研究主題に合った方法で研究授業に取り組む。研究授業の時期が集中しないように、1学期から計画して取り組む。</p> <p>⑥ 引き続き、主体的で対話的で深い学びをすべての教科で推進していけるような実践を工夫していく。</p> <p>⑦ 今後も児童の運動の機会が増えるような取組を行う。しかし、夏の時期のなわとびは熱中症の危険が懸念されるので、実施時期の検討をする。1学期の跳躍向上をねらう動きとして、耐寒スポーツで取り組むポップコーンの足の動きの練習をする。</p> <p>⑧ 今後も継続して取り組む。</p>	

(様式2)

大阪市長（学校園名）令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ⑧ 今年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日数の 50%以上にする（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）。 【R6:100%】 ⑨ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を、同水準以上にする。【R6:100%】	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容⑨【基本的な方向 6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末の活用を推進し、学習面で児童が主体的に活用できるようにする。 ----- 指標 1日1回以上、学習の場面や家庭学習において学習者用端末を活用できるように設定する。（navima・スタディサプリを含む）。	A
取組内容⑩【基本的な方向 7、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末の活用を推進し、生活面で児童が主体的に活用できるようにする。 ----- 指標 児童がこころの天気を毎日入力する。また、雨マークや雷マークが3日以上続いた時には、児童の生活面での状況を確認し、指導・支援を充実する。	A
取組内容⑪【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 会議を含む現職教育を精選し、全ての教職員が放課後の時間に余裕を持てるようにするとともに、公私ともに教職員一人一人が予定を組みやすくできるように工夫する。 ----- 指標 現職教育に関わる行事を精選する。また、ICT を活用してスケジュール管理ができるようにする。	A
取組内容⑫【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の平均時間外勤務を減少させ、持続可能な教育活動を推進する。 ----- 指標 ゆとりの日を週1回設定し、全ての教職員が定時退勤する。 今年度は全ての教職員の月総時間外勤務時間について 55 時間を上回らないようにする。また、1年間を通して1人あたり月 45 時間を超える時間外勤務を6ヵ月以下にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
⑨	全学年が週 1 回以上、navima やスタディサプリ、発表ノートによる学習の振り返り、調べ学習などで学習者用端末を積極的に活用し、その様子を HP に掲載するようにしている。日常の宿題や長期休暇の課題において、活用できている学年も増えている。「学習者用端末利活用率」では、80%以上日数割合が 86.7%で、6月から12月まで行事・学級休業を除くと93%と高水準で活用することができた。
⑩	学校全体で積極的に声かけを行っていることで、「こころの天気」の入力率はどの学年においても75%を超えている。雨マークや雷マークが続いた時には、担任が当該児童に声をかけることで、児童の生活面での状況を確認し、指導・支援することができた。
⑪	学年部会を週1度行い、学習の進め方や行事について話し合う機会を設定することで、現職教育に関わる行事の精選を行うことができた。また、Google カレンダーを活用することで、スケジュールの共有ができるようになった。職員室でも Google カレンダーを掲示することで、最新の情報を共有することができた。
⑫	週1回のゆとりの日を意識して、定時退勤に取り組んでいる。教員の時間外勤務時間上基準の達成率では、4月から12月まで全ての月において100%を達成している。
改善点	
⑨	navima とスタディサプリによる宿題を出し、学習者用端末を使って家庭学習ができるように取り組んでいく。さらに、活用の幅を広げられるよう、「らっこたん」や「プレイグラム」で児童のタイピング力を上げたり、「発表ノート」や「気づきメモ」で自分の気づいたことや考えたことをメモしたりするように取り組んでいく。
⑩	「こころの天気」の活用について、再度児童に活用の意味を知らせることで、改善していく。
⑪	行事を削減しすぎないように話し合いを進めていく。スケジュール管理は、今後も Google カレンダーを活用していく。
⑫	定時退勤は、今後も引き続き意識して取り組んでいく。また、仕事を持ち帰らないように SSS と連携を取ることで、教室掲示や印刷、宿題チェックなど、さらに仕事の負担軽減に努めていく。